

NEWS LETTER



△ユースボランティア茅ヶ崎 2021 体験風景

CONTENTS

- ・特集：市民活動と SDGs
- ・モチベーションアップ!! 実践講座
- ・ユースボランティア茅ヶ崎 2021
- ・こどたん+(プラス) 2022 参加募集
- ・「さぼちゃんが行く！」
NPO 法人 赤ちゃんからの
アートフレンドシップ協会
- ・お知らせ/カレンダー

サポセンはみんなの想いでできている



ユースボランティア茅ヶ崎のイメージキャラクター「ドリーミィ」。2012 年に公募し、市内中学生、浅川さんの作品がユース参加者の投票をもとに選ばれました。編みぐるみはサポセンスタッフの手作りです。

開催案内



参加無料

みんなで創る

誰一人取り残さない社会

オンライン開催

- ◇日時：2021年 10月24日(日) 14:00~16:30
- ◇対象：市民活動団体、自治体、企業、SDGs に関心がある方
- ◇講師：高木 ^{こすも} 超 さん（慶應義塾大学大学院 特任助教）
- ◇定員：30名（10月1日より受付開始、先着順）
- ◇申込締切：10月17日(日)

詳細・申込みは
コチラ▼



多様な活動主体のパートナーシップ形成を目指し、SDGs の推進に向けて様々な分野で活動する人々が出会い、対話し、顔の見える関係を築く場として、今年度より、SDGs カフェという新規事業をスタートします！

キックオフとなる第1回 SDGs カフェでは、講師の高木超さんより SDGs の全体像を理解するための講義（本質を深く理解するためのキーワード解説と各地の事例紹介）、参加者同士のグループワークを行います。

もっと知りたい！サポセンのこと

～市民活動応援プログラム～ 2021年7月～12月 開催報告&これからの予定

特集



市民活動とSDGs



SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」です。キーワードは「Leave No One Behind (誰一人取り残さない)」。2030年までを期限とする世界共通の17の目標により、貧困や飢餓を撲滅し、地球環境を壊さずに経済を持続可能な形で発展させ、人権が守られる世界の実現を目指しています。日本では、2016年に政府の「SDGs実施指針」が策定された後、今では、数多くの企業、自治体、NPOがSDGsに取り組むようになってきました。

SDGsの「目標17」では、貧困・格差の解消や環境問題の解決など、目標1から16番までのすべての目標において、多様な主体(行政、企業、NGO等)の「パートナーシップによる問題解決」が目指されています。国内では、2017年に発足した一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク(約100団体が加盟)が、環境、福祉、教育、

ユースなどの多分野の団体をつなぎながら、政府との意見交換の場に市民活動団体の声を届ける活動を行っています。また、政府が発足させた「SDGs推進円卓会議」にも、3名のNGO代表者が参加しています。

現在、SDGsの達成に向けて多様な主体が協働する流れは自治体レベルにも波及しており、2021年からスタートした「茅ヶ崎市総合計画(概要版)」にも、多様な主体のパートナーシップを通じて6つの政策目標を実現することが明記されています。市民活動は、今やどの地域においても、SDGsの実現に欠かせない重要な主体となっているのです。

そこで、本特集では、SDGsにとっての市民活動の意義について考えます。次に、SDGsの実現に向けてサポセンが果たす役割について考察した後、最後に、本年度からサポセンが実施するSDGs事業について紹介します。

SDGs 実現にとっての市民活動の意義

～市民活動の2つの特徴(当事者性と先駆性)から～

子ども食堂の活動を通して、子どもの貧困問題を改善したい。海岸のプラスチックゴミを減らすことで、美しい自然を未来に残したい。

人は、自分が関心を寄せる問題が、自分とつながりのある「ほっておけない」問題(=自分事)だと感じた時、現状変革に向けて行動を起こすのではないのでしょうか。

今、SDGsの研究者や実践者の間では、「SDGsを自分事化する」というキーワードに注目が集まっています。何故なら、市民活動のように、当事者性や自発性から始まる活動には、人々の心を揺り動かし、行動変容へと誘う力が宿っているからです。

行政や大企業のように、大きな組織力があっても、問題を自分事と感じる当事者意識がなければ、SDGs達成への大きな推進力にはならないのです。

さて、市民活動には、左記の「**当事者性**」に加えて、潜在的な社会課題に早く気づき、行政に先駆けて問題解決に向けて取り組む「**先駆性**」という特徴もあります。

例えば、「ひきこもり」の問題は、自治体が公共的課題として認識するはるか以前から、当事者が自助グループをつくって活動を続けてきました。最近では、自治体が「ひきこもり」の専門部署やワンストップ相談センターを設ける動きもありますが、「ひきこもり」の問題が公共政策の課題として認識されるようになったのは、それほど古いことではありません。

行政の視界に入っていない「とり残されている人々」の存在に気づき、公的支援の有無にかかわらず活動を始める市民活動は、「誰一人取り残さない」社会を実現するうえで無くてはならぬ存在と言えるのではないのでしょうか。

SDGsの実現に向けたサポセンの役割と取り組み

貧困・格差、環境問題など、SDGsが取り上げる分野は複雑に絡み合っており、一つの団体やセクターでは解決できないことがほとんどです。農福(農業・福祉)連携のように、分野を超えて複数の団体が協力し合うと

もに、行政、企業、市民活動団体といった複数のセクターがパートナーシップを組むことで、問題解決が円滑に進むことが期待されています。

とはいえ、価値観・行動原理の異なる3つ（行政・企業・市民）のセクターが協働するためには、

- (1) ビジョンと具体的な到達目標を共有すること
- (2) 価値観・行動原理の違いを理解すること
- (3) 協働事業を共に進める個々人の「人となり」を知り信頼関係を築くこと

の3点が欠かせません。いずれも重要なポイントですが、サポセンでは(3)の機会を創ることから始めたい

と考え、新規事業を企画しました。なぜなら、(3)なしに(1)や(2)のステップに歩みを進めても、協働事業を成功に導くことは困難だからです。

サポセンでは、今年度から「SDGs カフェ」という新規事業をスタートします！SDGs カフェは、毎回多様な分野で活動するゲスト講師をお招きし、SDGs に関わる具体的な活動実践について学びながら、参加者同士の顔の見える関係を築ききっかけづくりの場を提供します。

☆10月24日(日)に第1回SDGsカフェ(キックオフ)を開催！ 詳細については1ページをご覧ください。

SDGsをもっと知るには館内の「図書コーナー」へ！

▷未来をつくる道具 わたしたちのSDGs

著者：川廷昌弘

▷まちの未来を描く！自治体のSDGs

著者：高木超

▷SDGs時代のパートナーシップ

編著：佐藤真久、関正雄、川北秀人

▷SDGsとまちづくり

～持続可能な地域と学びづくり～

著者：田中治彦、枝廣淳子

▷持続可能な地域のつくり方

著者：寛裕介



他にもいろんな分野の書籍があります。
貸出も可能(2週間2冊まで)。

開催案内

オンライン開催

NPO 講座「今だから整えよう！」モチベーションアップ!! 市民活動の実践 3 講座

「組織としての課題」や「やるべきこと」を明確にし、一步一步着実に、活動をさらに発展させるための元気がでる実践講座です。1回でも3回全ての受講でもokです！

第1回

ひとりひとりの得意を生かした組織づくり

10月30日(土)14:00~16:00

小さく始めて長く続ける、メンバーひとりひとりが役割を持って気負いなく活動する極意とは。

- 小学校のPTA活動から始まった20年の活動軌跡を紹介
- まわりを巻き込む事業の作り方、助成金の活用方法

<講師>

塩崎 裕子さん

(園芸家、イーハトーブ湘南会長)

益永 律子さん

(認定NPO法人NPOサポートちがさき代表理事)

第2回

ココがポイント！助成金・補助金申請

11月13日(土)14:00~16:00

早めに準備！審査で共感してもらえる申請書類の作り方。

- 助成元の目的や特徴を知る
- 団体の強みや特徴を活かした事業企画、資料作り
- 茅ヶ崎市「げんき基金補助制度」の紹介

<講師>

水澤 弘子さん

(さがみはら市民活動サポートセンター

総括責任者兼センター長)

第3回

できる！市民活動の会計処理+個別相談

12月4日(土)14:00~16:00*

「会計は数字で書いた事業報告書」。信頼される組織であるために、おさえておくべきこと。

- 会計業務の大切さ
- 帳簿の付け方、費用計上のし方
- 人件費の考え方、税務について

*個別相談(16:00~17:00)

→ 11月1日より受付開始
(15分×先着4団体、対面可)

<講師>

本郷 順子さん

(NPO法人税理士による公認活動サポートセンター理事)

全講座「参加費無料」、定員20名、オンライン受講が難しい方は、サポセンでの視聴可能(要申込・先着10名)、市民活動団体・これから団体設立を目指す方・関心のある方のご参加をお待ちしています！

申込み・詳細はこちら▶



2年ぶりの開催が実現！

今年で17回目の開催を実現でき、中学生41名、高校生54名、大学生4名の申込みがあり、中でも高校生の参加(55%)が最も多くなりました。こんなときだからこそ、青少年のために“ボランティアをする身近な機会”を提供しなければ、という想いから、規模を縮小したものの最善を尽くして実施しました。

オリエンテーション2日目では、以前に参加した高校生が自らの体験談を語ってくれました。

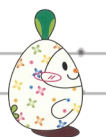
「中学1年生の夏、ユースボランティアに勇気を出して申込み、そのことで自分は変わることができました。今では文化祭の実行委員会に手を挙げたり、部活動の部長に立候補して部長として活動しています。勇気を出して行動することで、自分が強くなりました。」



参加者には感染状況により中止もあり得ると通知していたものの、実際、中止の連絡をすると「この体験を楽しみにしていたので残念です」とやむを得ず体験を取り止めたり、一方それでも気を取り直して他の体験を申込みする学生もいました。

今年も酷暑でしたが、感染拡大を意識してか、海や里山などの屋外で活動をする体験先を希望する生徒が多く見られました。

コロナ禍のため制限されたプログラムになりましたが、これまで通り、一人ひとりが関心と興味をもとに体験先を決め、開催期間中には普段の学校生活などは全く違う世界を体験してくれました。



ボランティア体験先の様子より

現場へ実際に足を運ぶと、現場ごとに活動内容は異なりますが、参加者が自ら考え行動をし、ボランティア活動を通して生き生きとした表情に変化していく姿を見ることができました。

- ・子どもたちの相手もしながら流れ出る汗をタオルで拭き、プールの準備をしている様子
- ・なつかない子に、はじめは親御さんと話し、おもちゃで遊んでいるうちに徐々に子どもと仲良くなる姿
- ・体験に入る最初の反応は様々ですが、慣れてくると笑顔や笑い声が生まれる様子など

こんなことを感じました！(参加者体験レポートより)

- 福祉施設**・他の人のように会話が弾むようになりたい
- ・仕事をする人たちが常に工夫をしているのを見て、私も何か役に立つことをしたい
- ・他の人を幸せにするには、自分から何かを伝えるだけでなく、相手に耳を傾けることが大切
- ・コミュニケーションが難しくても、明るく笑顔で接することが大切で今後も(笑顔を)意識して生活をしていきたい
- 子ども支援**・支え合いの心を学び、生活でも支え合いをできる人になりたい
- ・想像以上にやるべきことが多くあって、子ども達を楽しませたいという一心で活動している皆様に感激しました
- ・優しくスタッフのかたが声をかけていて、その声掛けが家族のような雰囲気づくりにつながっていた
- 社会参加支援**
- ・興味のある映画製作を“本物”から学ぶ機会が得られ、とても有意義な活動だった
- 環境**・ビーチクリーンを通じてごみを増やさない努力をしようと思いました
- ・コロナで中止の活動も多い中、とても貴重な経験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです
- ・未来に綺麗な海を残すために、自分のできることを小さなことからでも少しずつやっていきたい

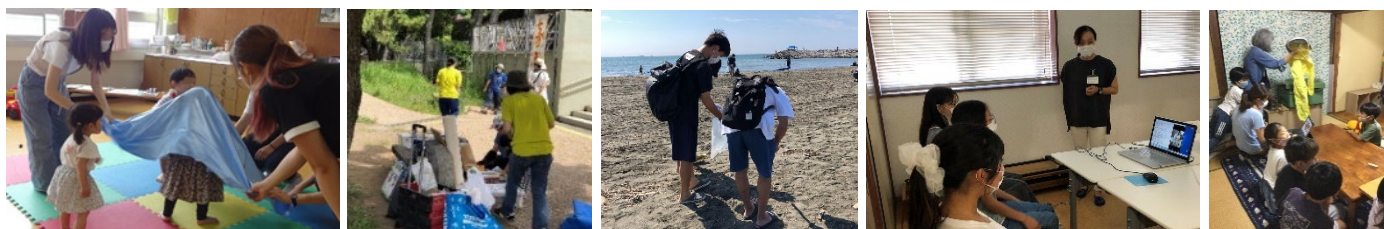
ボランティア体験をした参加者が、自分を取り巻く社会の広がりを知り、他者を知り自分と向き合い、将来、自分なら何ができるか、何がしたいか等真剣に考えるきっかけになったと感じられました。今回の体験が参加者の学校生活や将来における進路選択の一助につながることを期待しています。

例年なら、期間中の8月に、ボランティア体験を共有、交流する“カフェ de ボランティア”を開催しているのですが、今年度は中止に。自分だけの振り返りととどまることなく、共有ができるような別の方策を主催者としては考えていきたいです。

地域社会に見守られて

受入先からは「それぞれに学びがあり、関わった全ての人にとって有意義だった」「素直な姿に勉強させていただく場面があった」など参加者と直接ふれあうことで新たな学びになったという感想と次の開催に向けた改善策を頂きました。地域の人たちに見守られ、支えられ、ともに活動してくださる心強さを再認識しています。

体験期間中、例年と異なる様々な工夫やご配慮だけでなく、参加者と共に考え、ご指導頂いた受入先の皆様、本当にどうもありがとうございました。



後日談① サーフ 90 茅ヶ崎ライフセービングクラブ

ユースボランティア体験に来た中学生 2 名が活動に興味をもち、体験後も活動に参加。ついに親御さんの承認を得て、新しく会員になり、今、一緒に活動をしています。



後日談② 湘南市民メディアネットワーク

今回のユースボランティア体験では、映画のエキストラをしたり、製作現場に機材を運んだり、製作スタッフからの指示のもと補助的な役割を担ったりしました。

映画を製作する高校生たちの青春物語『リテイク(仮)』は、来年の春頃の完成予定です。

【体験先の受入団体・施設 17 カ所】

(社福)翔の会萩園ケアセンター/ (社福)翔の会湘南鬼瓦/
(社福)翔の会ブルーベリー/ (社福)翔の会水平線/
(特非)松の実会みらま〜/ ボランティア香川/
(社福)松が丘保育園/ (特非)ワーコレたんぼぼひろば/
きらきらぼし(子育て応援する会)/ちがぼ〜/
(特非)赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会/
ほのぼのビーチ茅ヶ崎/ サーフ 90 茅ヶ崎ライフセービング
クラブ/ (特非)湘南市民メディアネットワーク/
(認定特非)NPO サポートちがさき/
※生活リハビリクラブ茅ヶ崎/※茅ヶ崎里山公園倶楽部
(順不同) ※感染拡大防止のため受入中止

■ ユースボランティアの受入れをしました！@サポセン

かつてないほど多く、10名の参加者がサポセンでの体験を申込み、ボランティアに来てくれました。スタッフ補助作業として施設消毒、花壇の水やり、ゴーヤ収穫から新聞切り抜き、情報紙発送用の宛名ラベル貼り、利用団体との交流等、市民活動をサポートする幅広い取り組みを実際に体験し、知ってもらいました。

また、これから実施するサポセン事業について、若者ならではのアイデア・企画を沢山いただきました。地元について、もっと知りたいと思っていること、そして特に、これからも住み続ける自分たちの街として環境問題は今後も直面することであり、自分ごととして意識していることを強く感じました。

◇「こどたん+(プラス)」学生企画案 一部ご紹介！

・写真展示(茅ヶ崎の好きなおとこ)・茅ヶ崎シンボルのえぼし岩を学び、作る ・海にある貝殻や自然のもの、家にある古着・不要な布を利用したワークショップ・茅ヶ崎になじみのある農家さんの野菜販売・茅ヶ崎食材を使ってクッキング・茅ヶ崎に所縁のあるバンドのミニライブ

今月からこどたんのアイデア・企画を出してくれた学生たちと協力し、学生企画の実現のために動き始めます！これから月に2回ほどミーティングを実施し、構想を練っていきます。

みなさんも“こどたん+2022”に参加して
私たちの企画をのぞいてみませんか？



☆年間を通じて、ボランティア相談を受付けています。ボランティアに興味がある！やってみたいな！と思った方、ぜひ、ご連絡ください。(若者ボランティア支援担当 佐野・佐々木まで)

■ 社会人のボランティア体験をコーディネートしました！

時がたっても、人はつながっていることを実感します。サポセンでは夏休みのユースボランティアの他にも10代からのボランティア体験の場を紹介しています。

7月末、「高校生の時、サポセンの紹介で、学童保育でボランティアをしたことを思い出してきました。」と、社会人5年目を迎える小学校の先生から相談がありました。聴いてみると、「子どもたちから学校内に花壇をつくりたいという提案があったのに草取りも花壇の手入れもしたことがない。どんなことでもいいので紹介してほしい。夏休み中に『子どもたちに何か還元できる体験』がしたい。」というものでした。

あふれる熱意に応えるためにネットワークを結集して2日間、真夏の市民活動体験ツアーに伴走しました。



1日目は、「まちづくりスポット茅ヶ崎」で肥料も農薬も使わない「たんじゅん野菜」づくりの自然に学ぶ農法に触れました。

◀ 猛暑の中、花壇での雑草取り

2日目は、新湘南バイパス高架下の「湘南夢わくわく公園」内の花壇で「イーハトーブ湘南」の方々に雑草取りのコツを教えてもらって、ひたすら草とりを体感。花壇づくりで困ったらいつでも相談できる関係ができました。



▲ソーラークッカーづくり

午後は、南湖の「みんなの居場所びすた〜り」で、ソーラークッカーづくりに初挑戦。矢畑の「RIVENDEL」では「苗は分けてもらう、厨房ゴミで肥料をつくる」お金をかけずにすむ知恵をもらいました。

「地域には頼りになる人がいる」手ごたえが得られたと思います。コロナ禍で希望を失いがちですが、子どもたちの提案から自然に触れる場が校庭に生まれるのが楽しみです。あそこに行けばホッとすると、「何とかやるよ」って思える。サポセンはそんな場所でありたいと願っています。小中学校・高校の先生方、どうぞお気軽にご相談ください。

■ 参加団体募集 **こどたん+(プラス) 2022 オンライン開催!**

こどもおとなも、多世代で楽しめる体験型交流イベント!
持続可能な社会をつくるために、市民活動の奥深い世界を体感しながら、
ちがさきを知る、みんなでつながる、新しいことにチャレンジする、
キッカケづくりの場「こどたん+(プラス)」を一緒に創る仲間を募集します!

参加申込は
10/31(日)まで



▷開催期間：**2022年2月14日(月)～3月13日(日)**

▷開催方法：サポセン HP 内「こどたん+2022 特設サイト」にて、コンテンツ公開
期間中に、ZOOM 体験イベント等の生配信も実施予定

▷応募できる方：茅ヶ崎市内を主たる活動の拠点とする市民活動団体や、学校、行政、自治会等地縁団体、
社会・地域貢献に関心のある事業者、グループ・個人など

▷募集内容：こどもから大人まで、みんなが見て・聞いて・体験して、学び・楽しめる企画

A.クイズ

持続可能な未来のために何をしたらよいのか、SDGs
と団体の活動を関連付けた3択または2択クイズを
出題! 小学生ぐらいを対象に問題と解答を作っ
てください。*「こどたん 2021 チャレンジクイズ」参照

B.動画配信

団体のパフォーマンスやワークショップの制作動画
を、サポセン YouTube チャンネルで公開。または特
設ページに団体チャンネルをリンクします。視聴し
てもらいたい動画データ・URLをご提供ください

C. ZOOM 生配信

ZOOM を通じライブで視聴参加者とのやり取りを楽
しむ企画。サポセンがホストになり、参加者と各団
体をつなぎます。1 枠 30 分～60 分程度。事前打合
せ・リハーサル参加必須、開催日程は応相談

D.その他

他団体やサポセンとのコラボレーション企画、気軽
に楽しめるオンライン交流会・ワークショップ、多
世代のつながりが生まれる新しいアイデアなど、持
込み企画大歓迎! 気軽にご相談ください

▷申込期間：2021年10月1日(金)～10月31日(日)

▷申込方法：

サポセン HP「こどたん+2022 参加団体募集」記事内の専用申込フォームから。
またはダウンロードした「参加申込書」に必要事項をご記入のうえ、直接持参
メール添付・FAX でも受付可。

▷お問合せ：ちがさきサポセン 0467-88-7546

募集要項など詳細はコチラ▼



■ 開催報告

イベントをつくる みんながつながる「キックオフ交流会」

- ・実施日：9月10日(金)18:30～19:30@Zoom
9月11日(土)10:00～11:00@サポセン
- ・参加者：14名(12団体)

10月からの募集に先立ち、昨年のオンラインこどたん
に参加した団体を中心に、交流会を開催。

サポセンからは、イベントに対する思いをお話しま
した。新型コロナの感染状況を鑑み、今回もオンラインを
主とした開催に決定したこと。昨年度は、初のオンライ
ン開催をなんとか実施したものの、実情はハラハラど
きどき(!)、反省点も多々あったこと。今回から名称に
「+(プラス)」を加え、多世代交流型イベントとして進
化させ、様々な主体とのコラボ企画を積極的に推進し
ていきたいこと。コロナに負けず、新しいことにもどん
どんチャレンジしていきたいことなど。

【参加団体の声】

- ・コラボ企画について、サポセンでマッチングの
提案をしてもらえたら、ぜひやりたい
- ・高齢者が多い団体で難しいかもしれないが、動画や
生配信にもチャレンジしてみたい
- ・SNS 発信が得意なので、茅ヶ崎のいろいろな人たち
をつなげるお手伝いができれば
- ・オンラインイベントを通して、団体の活動をもっと
多くの人たちに知ってもらいたい
- ・動画を見た視聴者からのコメントがあると嬉しい
- ・対面のまつりでやっていた、スタンプラリーなどが
オンライン上でも可能なら、サイトを訪れる人たち
の参加の意欲がわくのでは?

もっと楽しくもっと元気になれるイベントを目指し、
多くの団体からの参加をお待ちしています🎵





茅ヶ崎で活躍中の市民活動団体を追っかけレポート！

さぽちゃんが行く！

団体 HP ▶



NPO 法人 赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会

アートで子育てをコンセプトとし、0歳から大人の方まで誰でも参加することのできるワークショップや家族鑑賞会を柱として活動しています。美術館や行政との協働事業、保育園・幼稚園や学校への出張講座で社会における美術教育にも力を入れています。正会員 19 名、賛助会員 39 名、ボランティア 22 名

《代表の富田めぐみさんにお話をうかがいました》

子どもの主体性を尊重する活動

幼少時代から美術、演劇や音楽に親しみ、大学で心理学を学んだ富田さん。「子どもの自主性を尊重する」色彩心理の先生の考えに共感し、子どもの創作や大人向けの色彩心理の講座を運営する団体で多数の企画を手がけました。出産を機に、地元・茅ヶ崎で独立し、親子を対象にしたワークショップを始めることに。ポスティングから独りで始め、回を重ねるごとに人が人を呼び、スタッフとなる仲間も増え、2007年、前身となる市民団体アートケアひろばが誕生しました。

その後、家族鑑賞会の活動がきっかけで、2014年 NPO 法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会を設立しました。「赤ちゃんも絵画を見て反応するし、好みもはっきりしている！」という気づきから生まれた赤ちゃんを中心に鑑賞を楽しむ、子育てのヒントを解説する鑑賞会は珍しく、美術界でも話題になりました。



美術館からの依頼も増え、2014年、市民提案型協働推進事業に採択されたことで、幼稚園や保育園に美術みるっこプログラム※を導入してきています。市との協働は、団体としての信頼度を高め、活動の幅を広げることになりました。

アートでつながる親子の絆

団体のワークショップの特色は、「美術・芸術を通じて、親子の心のケアのきっかけを作る」ことです。参加する子どもには「今日は何する？」、ご家族には「子どものアシスタントになってくださいね」と声掛けします。ここでは、子どもの自主性に任せ、絵を描いたり、工作をします。子どもが考える時間をきちんと確保し、大人が少しこらえることが大切になります。子どもが“ひとりの人”として自分とは違う考えをもっていることに気づくと、子育てが楽になる親御さんが多いそうです。

家族が子どものことを認め、信頼されていると子どもが実感していると、学校や園などで思い通り行かなかったときも乗り越える力が湧きます。信頼と安心感のもとで子どもは前に一歩進むことができるのです。

ワークショップでもう一つ大切にしていることは、「記録」を残すということ。その日と最近の様子など子どもの成長記録を親に書いてもらい、それに対して返事をします。創作物に表れる子どもの発達やメンタルの様子に加え、学校や園での生活や育児面で困っていることがあれば、具体的にアドバイスをします。

回を重ねることで見えてくることもあるといいます。子どものアートの成長とともに育児記録として、家族の宝物になって喜ばれているとのこと。

アートの持つ可能性をこれからの社会に

8月にみるっこ®プログラムの一つである“テレパシーおえかき”のワークショップを見学しました。この“テレパシーおえかき”は、美術館に出向いたり、人とのコミュニケーションをとることができなくなったコロナ禍で、オンラインを活用することで、絵画を鑑賞したり、参加者が楽しんでくれるような試みはないかと富田さんから提案のあった新しい企画でした。

今回の参加者は園児たち 30 名と小学生親子の 1 組。進行役が、手元にある絵画について、「犬がいます」「右側に赤いドアがあります」と具体的な説明をテレパシーするように送ります。その言葉を聞いた園児たちが、どんな絵なのか想像しながら画用紙に描いていきます。最後に園児たちの絵をみせてもらうといった流れでした。



テレパシーという言葉がオンラインを通じてつながっていることを意識させ、伝えた言葉で出来た絵を見たときの単純な面白さとともに、鑑賞した絵画が茅ヶ崎市美術館にあり、展示されることがあると解説を聞くと、自然と「美術館に行ってみようかな？」と思いました。ライフスタイルから縁の遠いように感じていた絵画鑑賞というアートの世界が、ぐっと身近に感じることができました。

富田さんは「今後の活動でも、アートに触れる機会を多くの方に提供し、アートでの新しい発見をしてほしい」と語ってくれました。プラス思考の富田さんにまだ知りえぬアートの可能性をもっと広めてほしいと願っています。

※みるっこ®プログラム：活動の詳細は同協会のホームページ(<https://www.art-friendship.org/>)をご覧ください！

お知らせ

開催案内 ▶ ミニ講座 第3弾！
～対面講座～



「Excel で名簿作成 & 表活用（中級レベル）」

日時：10月19日(火) 13:30～17:00 (受付 13:15～)

場所：ちがさきサポセン フリースペース大

対象：市民活動団体、地域団体や福祉施設等のスタッフ
など公益共益活動に関わる方で、実務作業を担当
される方

講師：鈴木 洋一さん (NPO 法人パソコンボランティア湘南)

参加費：500 円 (資料代として)

定員：10 名 (先着順/1 団体 2 名まで)

持ち物：筆記用具、PC (貸出可/要予約)

PC 条件：OS/Win10、

マイクロソフト Office ワード 2016 以上

申込みはコチラ



継続

開催案内 ▶ 市民活動の PC サポート

パソコンボランティア湘南メンバーによるワンポイントレ
ッスン。(場所：サポセン)

Zoom の使い方や Office の操作方法、ホームページ記
事のアップ方法など、活動上のちょっとした困りごとにつ
いて相談できます。

お気軽にご利用ください。

PC サポートの
詳細はコチラ▶



【これからの予定】

9月27日(月)	10月11日(月)・25日(月)
11月8日(月)・22日(月)	12月6日(月)・20日(月)
〈2022年〉	
1月10日(月)・24日(月)	2月14日(月)・28日(月)
3月14日(月)・28日(月)	

①13:00～、②14:30～ (各1時間、事前予約制)

広報ちがさき「市民の活動だより」

毎月1日発行されている「広報ちがさき・市民の活動だ
より」のコーナーにて市民活動団体の魅力あるメッセー
ジを紹介しています。ぜひご覧ください。

▷10/1号：ボランティア香川

▷11/1号：子ども未来塾

▷12/1号：ママほぐ

紙面の都合上、掲載が延期
される場合があります

市民活動「げんき基金」へ寄付しました

館内にて市民活動を応援する「げんき基金」への募金活
動を実施しました。

- ・ゴーヤ (センターにて栽培、収穫) 5,477 円
- ・文房具類等 (たのくんからの贈り物等) 4,331 円

合計 9,808 円

～みなさまの善意にお礼申し上げます～

サポセンカレンダー

<○休館日、□館内利用制限日>

10月							11月							12月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31		

・10/19PM IT スキルアップミニ講座
・10/24PM SDGs カフェ
・10/30PM NPO 講座

・11/13PM NPO 講座

・12/4 PM NPO 講座
・12/7 PM IT スキルアップミニ講座 (ZOOM ホスト編)

※茅ヶ崎市「新型コロナウイルス市内感染のまん延防止に係る取り組み方針」や主催イベント開催のため、上記以外でも
フリースペースのご利用を制限させて頂く場合があります。ご理解ご協力の程お願いいたします。

ちがさき市民活動サポートセンター

開館時間 9:30～21:30 (休館日：毎月第3水曜日、年末年始(12/28～1/3))

アクセス JR 茅ヶ崎駅北口より徒歩 10 分程度・駐車場 14 台・障がい者用駐車場 1 台・駐輪場あり

連絡先 〒253-0041 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎 3-2-7 TEL/FAX：0467-88-7546

E-mail：s-center@pluto.plala.or.jp URL：https://sapocen.net/

編集・発行 認定特定非営利活動法人 NPO サポートちがさき

(指定管理期間：2021 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

サポセンキャラクター
“さぼちゃん”



サポセン HP